

おたのみの  
自治基本条例メモ

第10話

お問い合わせ  
政策調整課(米原庁舎)  
☎52-6626 ⑤52-5195



「市民主権」、「役割分担および協働」、「持続的発展」と「多様性の尊重」よね。

「それは『情報の共有』でしょー！」

「何だこいつ？ また難しい言葉がびくびくしてんじやないの？」

「ここで、まちづくりにしていくうえで、とっても大事なことがもうひとつあるんだ。」



「さて、今まで『基本原則』について4つ話したよ。」

「それよりの予習してあげるってことを、『情報共有』してほしかったなあ！」



「この『広報まいばら』や『伊吹山テレビ』も私たちにとって身近なお知らせよね。」

「市と市民が、お互いにもっている情報を共有することが、まちづくりのはじめの一歩になるんだ。」

「それよりの予習してあげるってことを、『情報共有』してほしかったなあ！」



「まちづくりをしていくために必要な情報をいつでも、だれでも知ることができるようにおきましょーっていいことよね。」

「ちよつと予習しちやつた！」

「そつだね。市が何をどのようにしよつとしていのかをお知らせして、市民や地域はそれをまちづくりに活かしていくことが大切なんだ。」



政策調整課の職員が、まちづくり団体を訪問。熱意をもって活動されているみなさんの「心意気」をレポートします。

お話ボランティア  
「夢のつばさ」

～子どもたちに夢を届けるお話活動～

- 会 員 8人
- 活動場所 伊吹薬草の里文化センター 図書館
- 連絡先 ☎58-0105
- グループからのメッセージ

ただいま会員募集中です。子どもが好きな方、本が好きな方、大歓迎。次回のお話会は、6月5日(日)10時からです。

お話ボランティア「夢のつばさ」のみなさんは平成7年から活動を始め、伊吹薬草の里文化センター内の図書室で月に1回「お話会」を開催されています。

活動を始めるきっかけは趣味の絵本づくりを何かに生かしたいという思いから。そこに退職後、子どもに関わることをしたいと考えていた人たちが集まってスタートしました。お話会に参加したことをきっかけにメンバーになった人もいて、70代から子育て中の30代までと幅広く、年齢差を感じさせない楽しく温かい雰囲気のみなさんでした。

とても印象的だったのは、「活動を続けるにはまず楽しむこと！」と話すみなさんの生き生きした表情。そして、「今日はよく笑ってくれたなあ」「この前よりお話が聞けるようになってるなあ」というように参加している子どもたちの成長と一緒に見守る温かい姿勢。

おはなしの世界は、想像力がかきたてられて、聴く人がどんどん引き込まれるそうです。また、小さいお子さんだけでなく大人向けの朗読会も人気があるとか。

これらが、きてくれる人はもちろん自分たちにとっても楽しめるお話会を続けていける源なのだと感じました。



お問い合わせ 政策調整課(米原庁舎) ☎52-6626 ⑤52-5195  
訪問希望はこちらまで